

25

■川面に翼を休める水鳥たちの群れ

おおうづ

大河津分水 (西蒲・分水町)

■環境：河川
 ■対象：一般
 ■期間：3月～4月
 10月～11月

信濃川のはらんを防ぐために作られた大河津分水も、今は桜の名所として、そして水鳥たちが羽を休める貴重な場所として愛されている。

〈渡り、真剣に生きる水鳥たち〉

川幅の広い信濃川分水堰（本流と新信濃川との分岐点）付近は、昔からガン・カモ類の集結する県内屈指の場所。当地域の河川は一般猟野に属し、猟期（11月15日～2月15日）の3カ月間は、カモ類の姿をほとんど見ることができない寂しい環境となる。従って、カモ類の探鳥は渡りを考慮して、3月上旬から4月中旬までと10月中旬から11月上旬までの年2回が好適。カモ類を狙うオジロワシやオオタカが出現した時の水鳥たちの騒然とした行動、春の渡りを前に1羽のメスを十数羽のオスが囲み、涙ぐましいほどの努力を払うディスプレイ行動、飛行の様子などを見ることができのかもしれない。

〈渡りの季節は、まさに野鳥の宝庫〉

多くの野鳥の種類に接したい方は、春と秋の渡りのころを考え、春は4月、秋は10月に当地域を

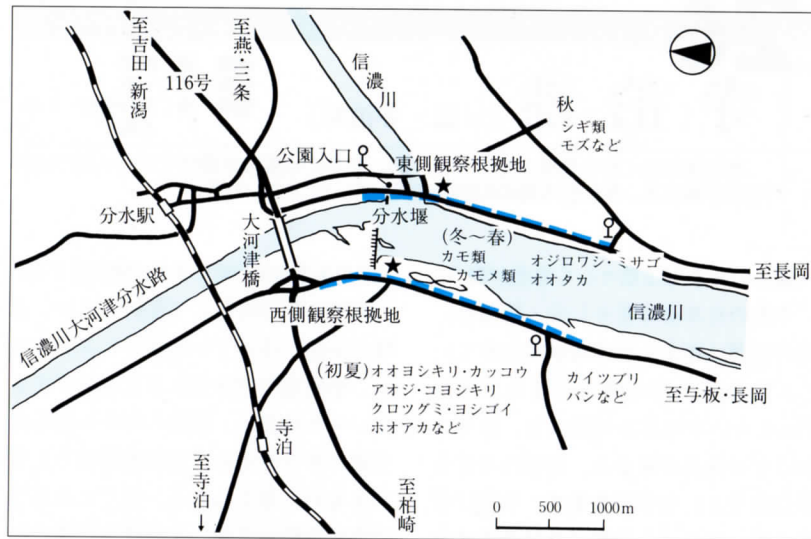
訪れたらいかがか。今までの記録から、この両月各に70種以上の野鳥が記録されている。冬鳥、夏鳥、留鳥、漂鳥、旅鳥のタイプの鳥が重なること、分水堰の河川敷内の自然はアシ原、草地、沼地、灌木林、耕地などの環境要因を含み単調でないこと、また丘陵地の野鳥も入りこむことなどが野鳥の種類を多くしている理由と考えられる。

〈繁殖期の河川敷はさえずりの競演場〉

安定した繁殖期の6月上旬ころ、朝霧の漂う河川敷は、遠方からカッコウの声が響きわたり、低木林からクロツ



大河津分水



グミ、アオジのさえずり、アシ原からオオヨシキリ、堤防の草地から早口のコヨシキリ、ソフトなさえずりのホオアカなど一見高原の朝の感を覚える。沼地にバン、カイツブリ、そして奇妙な声で縄張り宣言のヨシゴイ。上空から溢れてくるヒバリの歌と地上から時々発するキジの鳴き声。

〈晩夏の夕暮れに、秋の気配が漂う〉

夕暮れの河川敷は特に涼しい。イソシギの夕方の鳴き交わしを耳にし、早くもモズの高鳴きやアオアシシギの寂寥（せきりょう）感を誘う鳴き声が聞こえるかもしれない。アシ原にねぐらをとるおびただしいスズメのにぎわいが沈むころ、虫の音が一層にぎやかになる。

(渡辺弘雄)

メモ

交通 堰西側：JR寺泊駅下車、徒歩25分（タクシーが便利）／JR長岡駅よりバス長岡一寺泊線で町軽井下車、堤防沿い徒歩10分。堰東側：JR分水駅下車、徒歩30分（タクシーが便利）／JR長岡駅よりバス長岡一分水線で真代橋下車、堤防沿い徒歩15分。あるいは公園入り口下車で直接現地へ。

☑ 分水堰西側：駐車場はないが河川敷内は駐車可能。

分水堰東側：公園内に駐車場とトイレ有り。

探鳥会 長岡野鳥の会で実施。問い合わせ先：事務局、長岡市立科学博物館内

☎0258-35-0184

分水堰東側の公園内に大河津資料館があり信濃川と大河津分水の歴史を知ることができる。